

日本気象学会および関連学会行事予定

行事名	開催年月日	主催団体等	場所	備考
日本気象学会 昭和63年度春季大会	昭和63年5月18日 ～20日	日本気象学会	柏市民文化会館・柏市勤 労会館	Vol. 34, No. 12
第12回レーザセンシング シンポジウム	1988年5月27日 ～28日	レーザ・レーダ研究会 シンポジウム実行委員会	岡山市・桃花苑	Vol. 34, No. 10
Scale Modeling 国際シ ンポジウム	1988年7月18日 ～22日		東京	Vol. 34, No. 6
国際シンポジウム第3回 流れのモデル精度向上化	昭和63年7月26日 ～28日	同組織委員会, 他	日本都市センター	
第27回 COSPAR 総会	1988年7月18日 ～29日	宇宙空間研究委員会 (COSPAR)	フィンランド, ヘルシン キおよびエスプー	
国際オゾン・シンポジウ ム	1988年8月8日 ～13日	IAMAP オゾン委員会	西ドイツ, ゲッティンゲン (ゲッティンゲン大学)	Vol. 34, No. 1
Postgraduate Summer School on Microwave Remote Sensing for Oceanographic and Ma- rine Weather-Forecast Models	1988年8月14日 ～9月3日	EARSeL	イギリス・スコットラン ド Dundee 大学	
国際放射シンポジウム	1988年8月18日 ～24日	IAMAP 放射委員会	フランス, リール	Vol. 34, No. 1
第6回エアロゾル 科学・技術研究討論会	昭和63年8月23日 ～25日	エアロゾル研究協議会	大阪市立労働会館	Vol. 35, No. 2
数値モデルの系統的誤差 に関するワークショップ	1988年9月19日 ～23日	WMO	カナダ・トロント	
The 2nd International conference on Atmosph- eric sciences and Applica- tions to Air Quality	1988年10月3日 ～7日	同国際組織委員会 国内組織委員会	日本学術会議	Vol. 34, No. 9
日本気象学会 昭和63年度秋季大会	昭和63年10月26日 ～28日	日本気象学会	宮城県民会館	Vol. 35, No. 1

編集後記:「素顔」,「情報 File」が掲載され始めてから1年経ちました。また本年からは「研究機関めぐり」が始まりました。皆さんはこれらの記事をどのようにお読みでしょうか。

ところで、昨今のトピックスは“ENSO”と“南極域オゾンの減少”ではないでしょうか。前者については「昭和62年度日本気象学会賞受賞記念講演」(1987, 12)として取り上げられ、また後者については「オゾンの南極域春季減少——オゾン・ホール」(1987, 7)として解説されています。いずれもタイミングの良い掲載だったと言えそうです。

今、南極大陸では、第28次から29次越冬隊へ引き継ぎが行われ、開始以来27年目のオゾン観測も同時に引き継がれます。南極昭和基地におけるこの弛まぬオゾン観測によって、オゾン・ホール解明のための極めて貴重な資料が提供されていることは、広く世界に知られています。南極大陸への途上、オーストラリアのフリーマントルに寄港した観測船「しらせ」の写真と共に、“Japanes study ozone gap”という大見出しで、日本の南極観測隊の記事を現地紙 The West Austrarian が報じています。南極大陸に近いオーストラリアならではの反応でしょうか。(Y)